

0~5さいの子どもの育ち



一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟
第26次プロジェクトチーム著

未来を ちから 生き抜く力を育みたい

子どもが何を感じているのでしょうか？

どのように育とうとしているのでしょうか？

子どもの育ちは、目に見えにくく分かりにくいと言われていますが、子どもの今を理解することが、乳幼児期の教育・保育や子育ての第一歩です。

子どもは今、どこを向いてる？あっち？こっち？

様々な方向から「こどもどこ」を見ていきましょう。



子どもたちの未来に向けて、 どんな力が求められるのでしょうか？

これから数年後、子どもたちが大人になった時に過ごす未来には、どんな世界が待っているでしょう。AIやロボットが活躍するような技術が急速に進歩していくなかで、子どもたちに求められるのは、豊かな人間性とモノやコトをつくりだす想像力や創造する力です。乳幼児期から、人とふれあい、遊びを通じた体験を重ねて、自らが気づき、興味をもち、関心を深め、行動していくような主体的な学びが求められます。子どもたちの心身が健やかに育まれていくように、子どもの育ちを私たち大人が、理解することが大切です。

乳幼児期から、 じっくりと育てていきたいものは…



ボク
たち
が
み
ら
い
は
つ
く
る
ん
だ
ね





1 さい
人、モノとの出会い、
つながりを大切にする時期です



せんせい、
だいすき♡

大好きな先生のお膝の上で笑顔いっぱいの子。うれしいとき、さみしいとき、寄り添ってくれる身近な存在、スキンシップや応答的な関わりが積み重ねが大切です。

育ちの視点

お家から離れて不安を抱えている0歳児には、同じ保育者と過ごすことによって愛着関係が築け、安心・安定を基盤として次第に活動できるようになります。



1 さい
好奇心が旺盛になり、「やってみよう」という意欲が芽生えます



なにこれ？

ゆびがはいる

ここにも
はいる！

はいる！
はいる！

このゆびも
はいる！

パーテーションのたくさんの穴が、どうしても気になって仕方がない様子。一つ一つの穴に順番に指を入れていきます。

育ちの視点

個々の子どもが気になるものに、じっくりと関わる時間を確保してあげることで、様々な「モノやコト」への興味・関心が広がります。



2 さい
自我が芽生え、周囲の友だちへの興味や関心が高まります



なんでやね〜ん

大好きな絵本を繰り返し何度も楽しめます。お決まりの「なんでやね〜ん」のフレーズを友だちと一緒に合わせて言うのが嬉しくてたまらない様子。

育ちの視点

友だちと一緒に嬉しいうち。人といることの心地よさを体感し、他者への関心が芽生えてきます。



3 さい
ごっこ遊びやなりきり遊び、好きなこと、他者への感情が芽生えます



おばけだぞ〜!!

おどかし
ちゃうぞう

ごっこ遊びが大好きな3歳児。大人が怖がる様子を見て満足そう。朝から黒いマントやひとつ目、ドラキュラの歯を着けるだけで、気分はオバケに!

育ちの視点

友だちがやり始めると「僕も!」「私も・・・」とノリのいい3歳児の姿です。想像力・表現力などが育っています。

興味・関心



べちゃべちゃ

何でも口に入れて、触ったり、感覚が最初のステップ



よいしょ、よいしょ

好奇心

先生がおしりをよいしょ!
自分でも登りたい!



せんせい

やみしいときは、ココが一番落ち着く場所
(受け止めてもらえる大人は、子どもにとっての安全基地)



笑ったり泣いたりすることで気持ちを表現する0歳児。身近な大人が寄り添い、抱っこをし、優しい言葉かけや態度で応えることで、愛着関係が次第に形成されます。初めての環境下でも身近な存在を感じる大人がいれば、一人で活動してみようといった姿が見られます。

興味・関心



どうなっているのかな?

穴の中に何があるんだろう?
すぐ気になるなあ



ねえねえ!
これおもしろいよ!

伝えようとする気持ち
楽しいことは、友だちにも伝えたい



どうして?
もういっかい!

好奇心

不思議だな〜?
よし、もう一回やってみよう



満足するまで繰り返して遊ぶことで遊びを深める子もいれば、不思議を見つけるとは、遊びを次々と発展させていく子もいます。まだ十分には言葉にならない様々な思いを丁寧に汲み取り受け入れて、子どもの「自分で」という思いを尊重して温かく見守ってあげることが大切です。



ねえみてみて〜!

共感

友だちといると心が響き合う



見立て遊び・想像力

おいしそうだね!

子どもから創り出されるものは無限



なんだらう?
ふしぎだね?

興味・関心

土や水、草花や虫と向き合うと不思議だなあ...面白いね



友だちといることが楽しくなり、自己主張も強くなる時期。大人目線ではわがままで思うことも、肯定的に見れば「強い意志をもっている子」「芯のある子」と言えます。自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらう経験を重ねることで、友だちを受け入れることができるようになっていきます。

好奇心



なんだらう

これって何?不思議を見つけたら一緒に考えよう

興味・関心



お〜い

おもしろそうだね!
よし、一緒に遊ぼう!



いっしょにやってみよう!

人と関わる力

その遊び楽しそう!
自分もやってみよう!



他者への関心が高まり、友だちと一緒に遊びたいという気持ちが芽生える時期です。互いの存在に興味・関心をもって関係性を築くなかで、子どもの思いを受け止め気持ちを代弁する手助けも必要です。自分のやりたいことに取り組める時間、遊びを選べる環境づくりが大切です。



4 さい

やりたいことを、思い思いに！
友だちとの協同性も大きく育ちます



子どもはおもしろそうな遊びを思いつく天才!的に当てるだけでは飽き足りず、高く飛ばしたり遠くへ飛ばしたり、飛ばし方を話し合いながら楽しんでいます。

育ちの視点

思い立ったらすぐ行動!友だちと一緒にだとおもしろさが倍増!新たな遊びを生み出す名人です。



規範意識の芽生え

友だちと遊ぶときは、ルールがいるよね!



「個」中心の活動から、「集団」の活動へ、友だちを意識し、興味のあるモノやコトを共有し、共感したいといった姿が見られます。同時に、言葉をたくさん習得し、友だちとやりとりすることで「心の揺れ」や「葛藤」なども知る時期です。対話的な関わり、子どもの気持ちを整理する手助けが大切です。



5 さい

遊びも生活も主体的、
やりたいことは、自分たちで
話しあって決めていきます



卒園前のクラスイベントをみんなで決めます。やりたいことがいっぱい出てくるけれども、みんなが納得するまで、話し合っ決めて決めます。

育ちの視点

友だちと情報共有する力、企画する力、可視化する力など非認知的能力とともに認知的能力も育ちつつあります。



問題解決力

困ったことは見逃さないよ みんなで解決していこう



幼児期の終わりに近づく頃には、友だちと協力して物事に挑戦し、見通しをもって活動する力など総合的な力が育ちます。共通の目的を達成するために友だちの身になって考え、自分の気持ちを調整する姿も見られます。大切なことは、子どもの主体性を尊重し、任せて見守ることです。

独自性を踏まえた質の高い乳幼児教育を ～この国の明るい未来のために～

未曾有のパンデミックの渦中、私たちは、前例のない困難な事態に直面し、新たな時代を生き抜く力の育成が、今後ますます必要であることを自覚したように思います。乳幼児期は、自分と他者を尊び、粘り強く諦めず、しなやかに臨機応変に生きる力が培われるのに通じた時期であり、与えられた知識を覚えたり、提示された技能を習得したりするよりもむしろ、非認知(社会情動的)的な力が育つ時期です。この力は、子ども理解の力量とそれに応じた教育実践力を有する乳幼児教育の専門職によってこそ培われます。保育専門職による質の高い乳幼児教育によって、目の前にいる子どものウェルビーイングが、そして副次的には将来にも肯定的な影響もたらされます。それゆえに、全ての子どもへの質の高い乳幼児教育の保障が、2018年12月開催のG20ではアジェンダ14として各国の重点政策課題となり、SDGsでもターゲット4.2に位置づけられています。

世界では、保育者が高度専門職であり、乳幼児教育が家庭教育とも小学校以降の教育とも著しく異なるとの認識が広がっています。しかし、国際比較調査によると日本は最もその認識が広がっていない国です。日本の謙遜の文化は美徳であると思います。しかし、保育界に携わる方々に、子どもたちのために、是非一緒に、乳幼児教育の独自性と保育者の専門性について、社会に伝えて欲しいと願っています。本リーフレットがその一助となることを祈っています。

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 人間発達専攻 教授
北野 幸子

かつて子どもだった全てのみなさんへ

このリーフレット「こどもどこ」は、一人ひとりの子どもが自分らしく健やかに育つ社会となることを願って、日々子どもと向き合っている保護者の方々や保育関係の方々はもちろん、行政や議会関係の方々、「子どもってよくわからないなあ…」という方々まで、かつて子どもだった全てのみなさんに向けて、子どものおもしろさ、すごさを知る現場の保育者がつくりました。新型コロナウイルスの世界的流行というかつて経験したことのない課題を私たち人類は突きつけられました。正解は無く、知識として学んだことだけでは解決できないので、あきらめずに粘り強く試行錯誤を続け、みんなの知恵を集めて解決してきましたが、そのような姿勢、スキル等こそ、まさに子どもの頃に培われた力であり、未来を生きる子ども達に身につけてほしい力です。子どもは社会の宝であり、希望です。このリーフレットを手にした皆さんに子どものことを理解していただき、サポーター席に座っていただけたら幸いです。

一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟



のぞいてみよう!

園の生活と子どもの育ち

子どもたちの世界は、未知なる不思議の連続。虫や花に興味をもち、砂場やすべり台で一人で夢中に遊んでいたと思ったら、いつの間にか友だちにも興味の輪が広がって、みんなと遊ぶ、けんかする、探求する、葛藤する…。幼稚園・認定こども園では、子どもの成長していく様子がよく見てとれます。「できなかったことができるようになる」、「新しい知識を得る」その一つひとつの「結果」に至るまでには、子どもたちなりに試行錯誤の繰り返しです。子どもの育ちに対して周囲の大人が寄り添い、子どもが感じていること、考えていることに共感することで、そこには大きな意味と価値が生まれます。乳幼児期の保育においては、子どもが育つ過程(プロセス)に光を当てていくことがとても大切なのです。

乳幼児期は、非認知的な力を伸ばす時期。園の生活は、子どもの根っこを育てる場です。

乳幼児期に育てておきたいのは、思いやりや諦めず粘り強くやり抜く気持ちなど、数値化しにくい「非認知的な力」(社会情動的力)です。テストによって数値化できる認知的な力は、後から次第についてきます。乳幼児期には、自分で体験して感じ、気づきを得ることで考え探求していく自発的な行動にともない、子どもの自尊感情や協調性、自制心などが大きく育ちます。おもしろそう、なぜだろう、やってみようといった自発的な思いを伸ばす保育と環境づくりが、学びへの意欲を引き出し、知識や技能の習得といった認知的な力の育ちにもつながります。子どもが、身近なことに気づき、心を動かされ、あこがれをもって試行錯誤を繰り返し、豊かな経験を積み重ねるなかで非認知的な能力をのびのびと育むことが、求められる保育の姿ではないでしょうか。

日々の遊びが非認知的能力を伸ばします

よく遊ぶ子は脳の柔軟性に優れ、子ども同士で遊びをクリエイティブに発展させていきます。そうした遊びを通じて、集中力や問題解決力・協調性・折れない心など、様々な非認知的能力が育まれていきます。子どもが主体的に遊べる環境を用意し、おもちゃは自然物のように変化するもの、自由に形を変えることができるものがあればいいでしょう。



非認知的な能力を伸ばすことが、子どもの意欲を高め、将来的な認知的能力につながります



「足をつけずにあっちまでいこう!」やり抜く力が自信と達成感につながるね。



「うさぎさんになって、びよんびよん、上手でしょ!!」何かに、なりきって遊ぶことで表現する楽しさを体感。



「いつもと(見え方が)ちがうのは、どうして?」「不思議」は子どもを夢中にさせる遊びのマジック!?



「シャカシャカ、フワフワで気持ちいい!」何度も何度もシャカシャカプールに飛び込み、楽しさを体感!



新聞をビリビリ!大はしゃぎ。身近な素材に触れたり、においを嗅いだり…。積み重ねが「探求心」の芽生えに。



「まって〜!」友だちと一緒にだんぜん楽し



「これは僕のものだ!!」大きなドングリを見つけた!気持ちで一生懸命!目的に向かう集中力がすごい!



「はやくいこう!」心がわくわく。お目当ての遊具めざして、自然と体がはずんでいく。

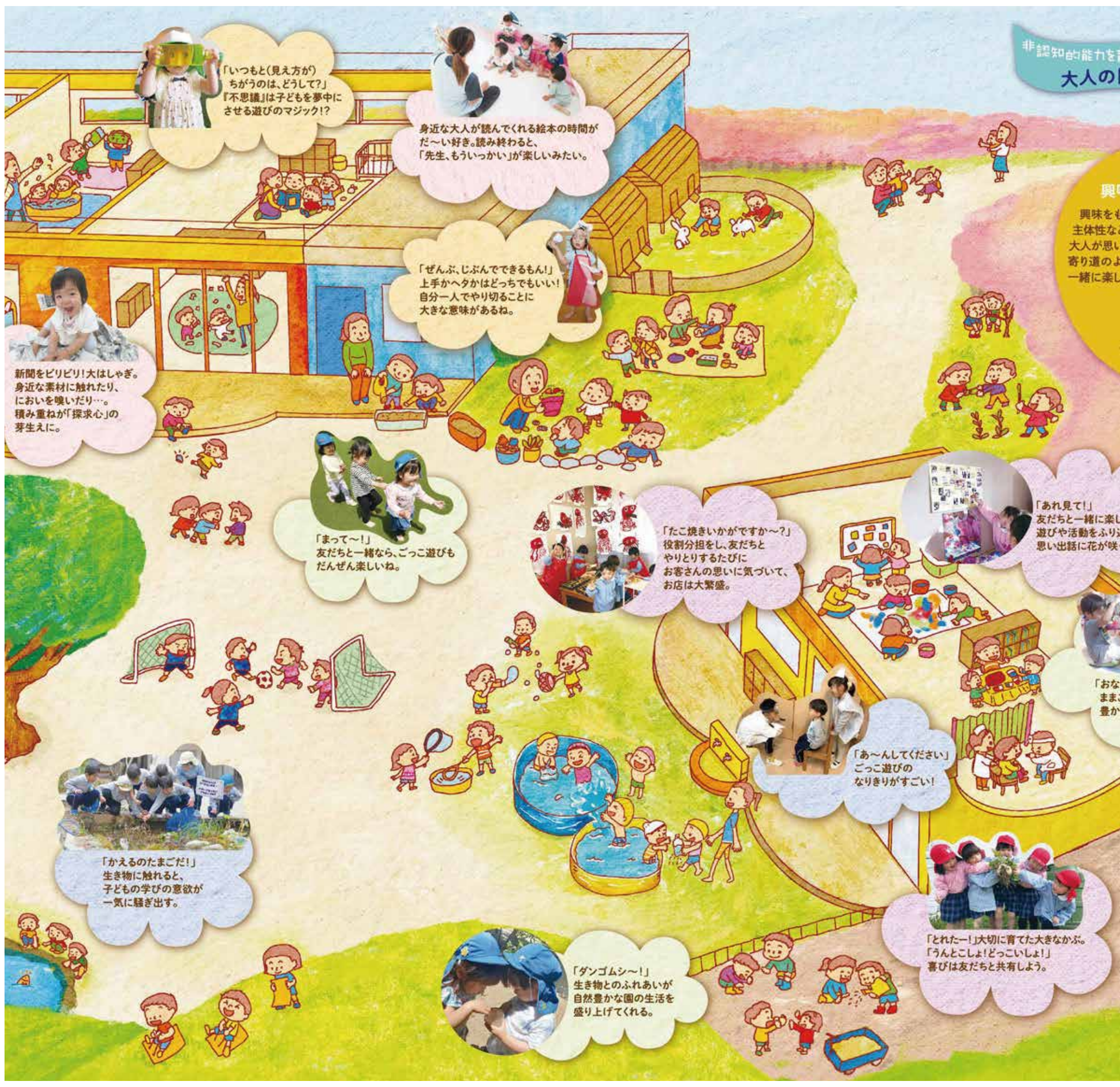


「かえるのたまごだ!」生き物に触れると、子どもの学びの意欲が一気に騒ぎ出す。



「うーん、おたまじゃくしってなんだ??」初めて見る生き物を手に取ると、小動物への興味がわくね。





「いつもと(見え方が)ちがうのは、どうして?」「不思議」は子どもを夢中にさせる遊びのマジック!

身近な大人が読んでくれる絵本の時間がだ〜い好き。読み終わると、「先生、もういっかい」が楽しいみたい。

「ぜんぶ、じぶんでできるもん!」上手かへたかはどっちでもいい!自分一人でやり切ることに大きな意味があるね。

新聞をビリビリ!大はしゃぎ。身近な素材に触れたり、においを嗅いだり…。積み重ねが「探求心」の芽生えに。

「まって〜!」友だちと一緒になら、ごっこ遊びもだんぜん楽しいね。

「たこ焼きいかがですか〜?」役割分担をし、友だちとやりとりするたびに、お客さんの思いに気づいて、お店は大繁盛。

「あれ見て!」友だちと一緒に楽しかった遊びや活動をふり返り、思い出話に花が咲く!

「おなかいっぱい〜!」ままごとで想像力と言葉が豊かに。大満足!

「あ〜んしてください」ごっこ遊びのなりきりがすごい!

「かえるのたまごだ!」生き物に触れると、子どもの学びの意欲が一気に騒ぎ出す。

「ダンゴムシ〜!」生き物とのふれあいが自然豊かな園の生活を盛り上げてくれる。

「とれたー!」大切に育てた大きなかぶ。「うんとこしょ!どっこいしょ!」喜びは友だちと共有しよう。

子どもの興味・関心を大切に

興味をもったことをさせてあげると、主体性などの非認知的能力が育ちます。大人が思いつかないような子どもの発想、寄り道のようなおもしろい遊びや活動と一緒に楽しみましょう。

大人が先回りしない

親やまわりの大人が先回り(過保護過干渉)すると子どもが自ら遊ぶ機会を奪ってしまうことも。子どもの主体的な活動を支えるには、大人が肯定的に見守り、子どもから提案や要求が出るのを待つことが大切です。

肯定的な言葉をかける

子どもの取り組みや行動を認め、共感することで自己肯定感が育ちます。自己肯定感が芽生えると、友だちの気持ちにも気づき、同時に他者を思いやる心も育まれます。たとえ失敗しても恐れずにチャレンジすることができる、自信が次第についてきます。

褒める(認める)

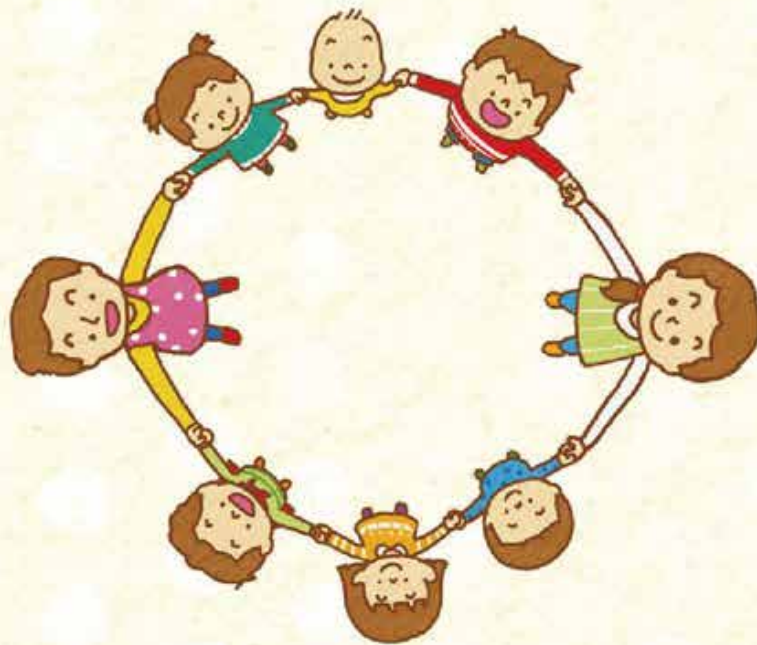
頑張った過程を踏まえて良かった点を具体的に、褒めてあげることが大切
『困っている友だちに、やさしい言葉をかけていた姿がとても良かったよ』
『一緒に手伝ってくれたから、いつもより早く終わってとても助かったよ』

励ます(勇気づける)

悲しいとき、困ったときに感情に寄り添い、立ち上がろうとする思いを勇気づけることが大切
『そっか、しんどかったんだね。その気持ち、よく言ってくれたね』
『最後まであきらめず、よく頑張ったね。その様子、見ていたよ』

広げる

次の目標や頑張りたいことを踏まえ、子どもと考えを共有し、新たな気づきにつないでいくことが大切
『ここまでうまくできているし、次に〇〇してみたらどうだろう?』
『これ、おもしろそうだね。作った〇〇を、こっちの遊びで使ったらどうかな?』



一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟
第26次プロジェクトチーム著

〒534-0026 大阪市都島区網島町6-20 大阪私学会館内
TEL:06-6351-5574 <http://www.kinder-osaka.or.jp>



【掲載内容について】

- 「こどもどこ」の著作権は、(一社)大阪府私立幼稚園連盟と北野幸子氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授／教育連携推進室長)に帰属します。掲載内容の一部及び全てについて、事前の許諾もなく無断で複製、複写、転載、転用などの二次使用を固く禁じます。ご使用されたい場合は、必ず著作権者にご連絡ください。

【写真の肖像財産権・イラストの著作権について】

- 「こどもどこ」の肖像財産権及びイラストの著作権は、(一社)大阪府私立幼稚園連盟と北野幸子氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授／教育連携推進室長)、及びパソナ・パナソニックビジネスサービス株式会社に帰属します。写真やイラストを使用されたい場合は、必ず事前に著作権者にご連絡の上、許諾を得てください。

「こどもどこ」を無断で掲載、二次加工された場合は、肖像財産権(パブリシティ権)及び著作権の侵害となりますので、ご注意ください。



【お問い合わせ先】

一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟

〒534-0026

大阪市都島区網島町6-20大阪私学会館内

Tel 06-6351-5574

<http://www.kinder-osaka.or.jp>